

博報財団 第9回「国際日本研究フェローシップ」成果報告書

I. 研究成果概要

氏名(在住国名)	尹 鎬淑 (韓 国)
所属・役職	サイバー韓国外国語大学校 日本語学部 教授
招聘回(招聘研究期間)	第 9 回 (2014年 9月 1日～ 2015年 8月 31日)
受入機関	国立国語研究所
招聘研究テーマ	e-learning 教育における日本語の習得研究 —誤用への自己訂正フィードバック—
研究目的	本研究は、日本語を第二言語として学習している韓国語話者を対象として行った作文の誤用に関して、以下の3つの課題を明らかにすることを目的とする。 (i) 複数回の間接的フィードバックは、韓国人日本語学習者の誤用訂正を促進するか。言い換えれば、さらに気づきを促す効果があるか。 (ii) 促進するとすれば、日本語能力の上位群と下位群で効果に違いが見られるか。 (iii) 複数回の間接的フィードバックにより誤用訂正を促進する特定の文法項目(受身, 助詞, モダリティ, 自他動詞)があるか。
研究概要:	<p>研究の結果、(i)'1回目より2回目のフィードバックによる訂正率が高く、複数回の間接的フィードバックは、自己訂正を促進することがわかった。また、(ii)'下位群は上位群に比べて誤用訂正の効果が高いことが明らかになった。(iii)'文法項目については、学習者は日本語母語話者に比べて、受身やモダリティを過剰使用する傾向が見られたが、フィードバックによって修正ができた。助詞については、1回目のフィードバックでの自己訂正の割合が高いが、2回目のフィードバックの後でも依然として誤用が残るケースがあるという結果となった。このことから、助詞は自己訂正しやすい項目ではあるが、複数回のフィードバックでも誤用が残り、間接的フィードバックによる自己訂正が極めて困難な項目であることがわかった。</p> <p>これらの調査結果をふまえると、複数回のフィードバックが迅速に行われる e-learning は、日本語学習者の自己訂正を促し、習得を促進する可能性が高いと言える。</p>
展望:	<ol style="list-style-type: none"> e-learning における FB の効果について、項目を絞ってさらに長期間の追調査を検討する。 e-learning における FB の方法について、どのような FB がどういう気づきを促進するのかについての調査を行う。 e-learning によるデータを集積し、日本語の習得研究や教育指導へ活用するためのコーパス研究を検討する。